

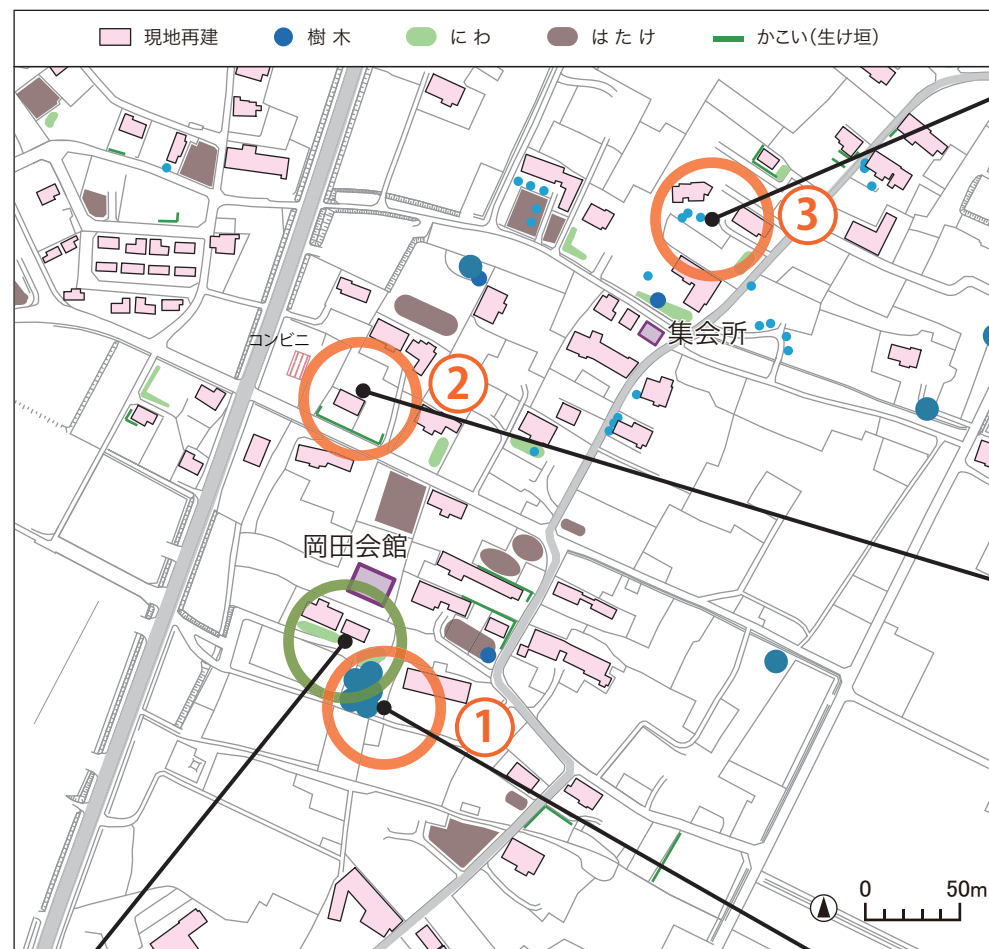
仙台平野みんなの居久根プロジェクト

# みんなの居久根ははじめの一步～植樹体験in南蒲生

- 主催：特定非営利活動法人 都市デザインワークス
- 後援：仙台市
- 助成：宮城県「みやぎ地域復興支援助成金」

開催日程：平成26年11月8日（土）

参加者：17名 仙台市：4名 取材：4名



12:30  
お昼休憩+チェーンソー体験：二瓶邸



11:30  
作業③：吉田邸▶採取した実生苗と提供苗の植込み作業



10:40  
作業②：児玉邸▶採取した実生苗と提供苗の植込み作業



10:00  
作業①：二瓶邸▶実生苗の採取



## ●参加者

男性 女性 居久根所有者



## ●参加者の声（一部抜粋）

### ▶楽しめた！有意義だった！

・楽しかったです。意義あることに楽しく参加できていい休日が過ごせました。今後ともよろしくお願いします。

### ▶学びのための有効な機会になった！

・地元（南蒲生地域）の苗（シロダモ）を使ってる植樹は、地域の人の協力や関心も高まるし、将来的にも地域とマッチングしやすいので、手法としては自然なやり方だと思いました。

・いぐねとは何かということの探求になろうかと思いました。

・これまでも植樹は何度となく体験していましたが、実生の苗を採って、その近くに移植するという事は、はじめてのことでした。

### ▶今後のこと…ちょっと気になる

#### 【心配…】

・新しい土を盛って、そこに植えましたが、あの土も雨で流れてしまわぬものか、気になるところでもありました。実際にどの程度根付くのか、やや作業をしながら気になるところでしたね。

・植えた苗が、このあとどう成長するか、定点観測情報などHPで知ることにはできるのでしょうか？現地に伺うのがいいのですが、それぞれの敷地内でもありますし、ふらっと、というのも難しいようです。

#### 【楽しみ！】

・どちらも桜を植えられたようですので、お花見ができる日が待ち遠しいですね。

### ▶活動の輪を拡げること

・全体としてはちょうど的人数だったのかもかもしれませんが、やや関係者のお顔触れが多かったのかと思います。今後、市民の巻き込み方の工夫は必要かな～、と思いました。

## ●目的

本プロジェクトにおける「植える」実践活動。昨年度までのイメージづくりを踏まえ、さらに今年度のWSでの意見やアイデアを実践する場とする。  
(事業計画書等から)

## ●効果・成果

①様々な立場の方々の参加があり、その協力関係により開催できたこと。(右図)

- ▶地元住民、地元以外の市民、行政など
- ▶近隣集落からの参加(新浜、若林区石場、荒浜)
- ▶家族での参加(子どもたちの参加)
- ▶参加者同士の交流の機会の提供

②開催により、実生などの現地の植生について参加者の理解を深められたこと。また、本プロジェクトの南蒲生での認知をさらに広げられたこと。

- ▶現地植生の理解とその意義は参加者コメントからも伺える(前頁に記載)
- ▶場所の提供者や近隣の方々への認知

③民地での緑の再生プロジェクトの一步として実現できたこと。

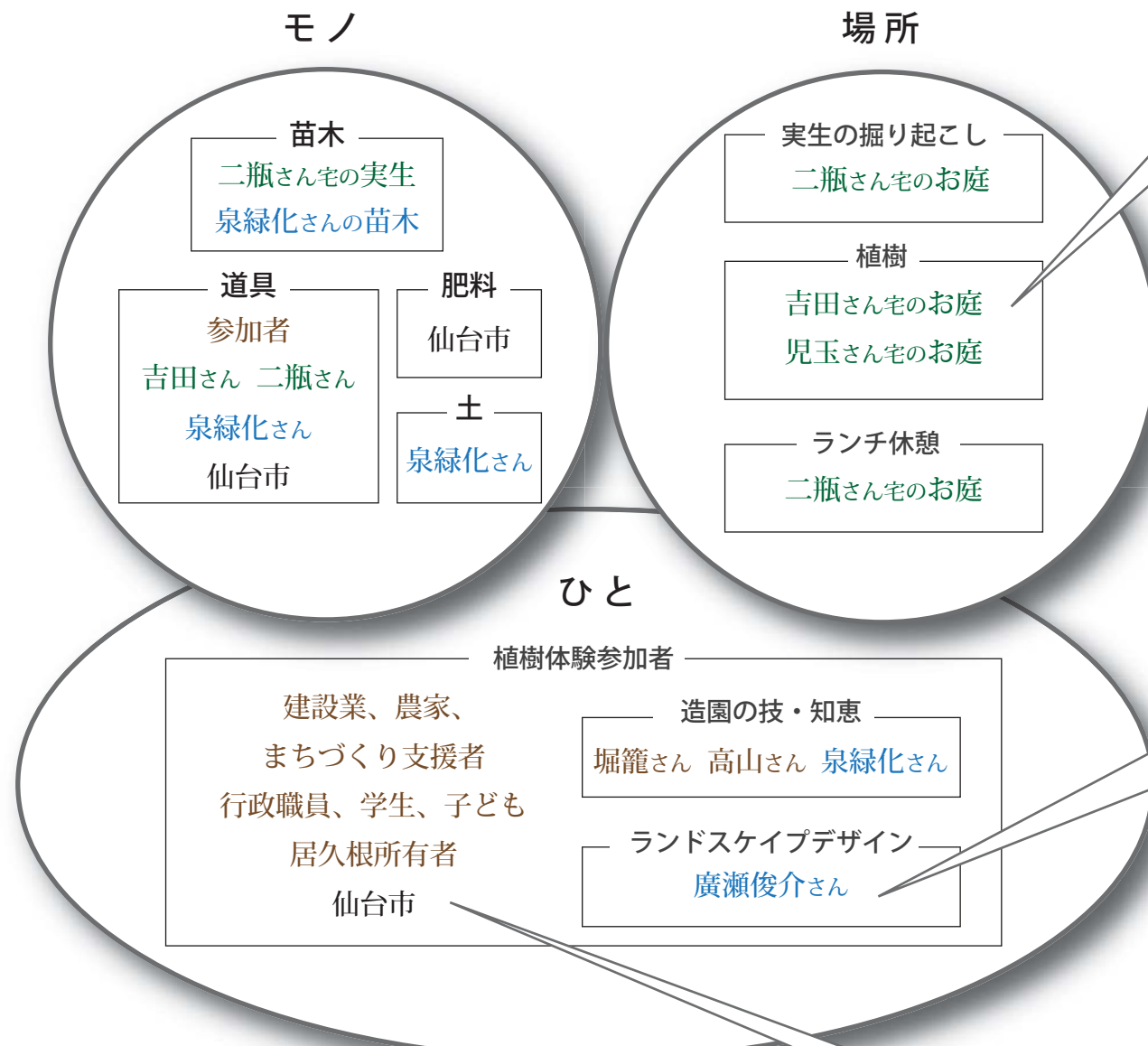
- ▶「居久根ひろば」の萌芽

④「植える」の実践の場とできたが、植えるだけではないプログラムも実現できたこと。

- ▶これまでのワークショップで出た意見の実践

## ●今回の植樹体験での「ひと」「モノ」「場所」の関連図

茶：市民 緑：地域住民 青：専門家 黒：仙台市



### ▷吉田祐也さん(南蒲生)からのコメント

楽しみながら学びながら緑と触れ合うことができました。  
今回の「はじめの一步」で地域内外のみなさんとともに植えた緑を育て、おすそ分けしていきながら、新しい居久根のカタチを模索していきたいと思っています。



### ▷廣瀬俊介先生(ランドスケープデザイナー)からのコメント

全体に、地縁共同体における人間関係をより良好にすることに留意された企画が実現されていたと思います。  
地区住民と、地区外からの職能や所属、あるいは参加目的のさまざまに異なる支援者または参加者の共同作業経験に、今回にとどまらず今後それぞれの方々がそれぞれの活動等において思い出され、その発展が試みられる可能性が含まれているように感じました。  
今回の企画においては、生態系サービスを人間が十分に得るための遺伝的多様性保全が意識されてもいました。今後は、地区近傍の緑地のうち土地改変が行われる計画のある箇所から植物を移植することについても、検討されてはいかがかと考えます。

## ●課題

①「育てる」ための世話、手入れの継続と仕組みづくり

- ▶今回参加いただいた方々に引き続き関わって頂けるような仕組み・ネットワークづくり。(これまでのワークショップでの意見・アイデアとの整合)
- ▶地元(南蒲生)との連携・調整
- ▶今回の取組みの発信(実施の様子や成長の過程など)

②参加を増やす工夫

- ▶参加者の増加・他地域への波及

③行政事業等との連携・連動

- ▶「育てる」「支える」仕組みづくりの検討



### ▷仙台市百年の杜推進課さんからのコメント

今回の取り組みは、植樹したことはもちろん、多様な支援者・参加者により実施されたことにも重要な意味があると考えます。  
今後は人的なネットワークの拡大を図ることで、活動・支援の幅の拡大や他地域への展開が見えてくるように感じました。  
今後も引き続き本市プロジェクトとの連携・連動について、その具体的な仕組みづくりの検討を進めさせていただければと思います。